

## 秋の町内文化財研修が行われる！ ひるがの白山神社祭礼獅子舞見学

9月16日は秋分の日、大型の台風18号が早朝豊橋に上陸した。朝から大雨となり、開催が危ぶまれた「ひるがの白山神社祭礼」は、昼前からの雨も上がり、午後祭礼が実施される頃には青空が広がる祭り日和となった。

本年度の高鷲文化財保護協会事業の中で、秋の文化財宿泊研修を春に開催される「京都葵祭り見学」とし、従来春に行っていた市内文化財研修を秋に行うことにした。そこで会員の方々から無形民俗文化財の内「まつり」を見学したいという要望が強くあり、ひるがの白山神社の祭礼を中屋保則氏の案内で見学することになった。なお、参加者は11名。

ひるがの獅子舞は「むかで獅子」または「けんか獅子」と云われるもので、獅子頭の前で、花取りという子役が獅子と掛け合いながら舞うのは、加賀獅子の流れを汲み、富山地方を基に庄川水系の部落を遡ったものといわれている。また、現在ある獅子舞でも、獅子だけで舞うもの（飛び獅子、へんび取り、しらみ取りなど）は飛騨地方から入ってきたものといわれている。

ひるがの獅子舞の笛は平瀬の笛に近いものが一番多くあることから、庄川村の旧尾上郷、海上、中野等の獅子舞と同じ流れのものと思われる。その意味で庄川の源流であるひるがのでこの獅子舞が奉納されるのは全く自然なことである。



研修に参加した会員（馬淵撮影）



北陸系のむかで獅子（馬淵撮影）

## 山川京子歌碑建立される

高鷲出身の国学者で詩人の故山川弘至氏は、明谷に生まれ、國學院大學を卒業後、折口信夫に師事し研究を重ねた。昭和18年に京子さんと結婚されたが、すぐに岐阜市内にある中部第4部隊に入営、終戦の4日前に台湾で戦死された。山川弘至氏は文学的素質に優れ「古事記」を七五調の長歌に訳し、戦地から原稿を妻京子さんの所へ送った。京子さんは夫の遺志を継いで國學院大學に入学し、卒業後は高校の国語教諭となった。その傍らで歌に励み、昭和27年に夫からの原稿を「日本創世叙事詩」として刊行し、また昭和29年に短歌結社「桃の会」を主宰し、全国で歌会を開いている。夫弘至氏の実家がある高鷲町切立へも何回か訪れ、弘至氏の遺品や作品・資料などを高鷲町切立にある山川弘至記念館に展示した。

歌碑は、弘至氏の実家宅（弟清至宅）に建立され、平成25年6月23日に妻京子さん、桃の会会員や親族及び高鷲町文化財保護協会会員ら約40名が集まって除幕式が行われた。歌碑の大きさは縦161cm、幅79cmの仙台石製で、自詠の歌「山ふかくながるる水のつき

ぬより なほとこしえの ねがいありけり」が刻まれ、横の昭和 33 年に建立された弘至氏の歌碑「うらうらとこぶし花咲く ふるさとの かの背戸山に あそぶすべもがな」に寄り添うようにある。

京子さんは「昭和 18 年に初めて高鷲に来て『こんな美しいところがあるのか』と思った。皆さんの好意で歌碑を建てていただいた。郡上、高鷲の心ある方のよりどころになれば」と話しておられた。(中日新聞朝刊を参考にしました)



山川弘至記念館



山川家宅にある弘至氏、京子さんの歌碑

## お 知 ら せ

(1) 「高鷲町の中切・向鷲見口番所跡と横田代助墓碑の未指定文化財を指定文化財にする」要望について (郡上市教委からの回答)

--- 市教委回答 ---

郡上郡内には近世に 17箇所 の口番所が設置されていたことが知られています。その中で郡上市史跡に指定されているものは、明宝の「坂本口番所」と「小川口番所」の 2 件です。問い合わせがあった 2 件の口番所については、教育委員会社会教育課職員が現地 で保存状態を確認し、すでに指定されている 2 件の口番所と文化的視点から比較検討を行いました。その結果、遺構等の歴史的構造物は全く確認できず、指定済みの口番所跡と比較して文化的価値が不十分であるため、市史跡の指定は無理と考えられます。

また、横田代助墓碑は、現在も高鷲町中切の往明寺境内で供養されています。これについては本体が花崗岩で製作されており、表面に風化により経年変化がうかがえますが、比較的良好的な状態で保存管理されています。墓碑を単体で文化財指定にするにはその価値が不十分なため無理ですが、地域の歴史文化を伝える貴重な一資料として、引き続き地域で大切に保存管理を行って行かれるのがよいと判断されます。  
(下線部筆者付加)

(2) 郡上市教育委員会社会教育課文化財係からのお知らせ

下記のことについて、市教委からお知らせの案内がきましたので会員の皆さまにお知らせします。

ア：白谷観音現地見学会 (研修会)

日時；10月19日(土)午後1時30分～ 関市板取白谷観音社務所(現地集合)

講演；「白谷観音の歴史と六社の縁起について」

申込み；10月10日(木)までに日本まん真ん中センター事務局(0575-79-3700)

イ：六社一観音めぐり

日時；平成25年11月17日(日)午前8時30分 日本まん真ん中センター集合

日程；星宮神社→新宮神社→本宮神社→白谷観音堂→高賀神社→瀧神社→金峯神社  
→日本まん真ん中センター

昼食；各自持参

費用；2000円(当日徴収)

参加申込み；11月5日(火)までに日本まん真ん中センター事務局(0575-79-3700)